

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170600102		
法人名	有限会社 ケアカンパニー		
事業所名	グループホーム ゆかい		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡12245番地6 (電話) 0954-20-0310		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21 年 2 月 13 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 25 日

【情報提供票より】(平成21年2月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 4.25

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	有 (80,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月3日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中内科医院 山口亨歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業者の前後は線路や交通量のある道路に挟まれた位置にあるが騒音は比較的気にならない。周辺にはスーパー等が点在しており、買い物には便利な立地である。木造平屋建てのホームでは、ホームの事業目的である残存機能の維持と向上を目指し、心身ともにしぼりのない「ゆとり・かいてき・いやし」の理念を挙げ入居者を尊重し過ごせるよう支援されている。ホーム内では入居者がゆっくと生活されそれぞれの趣味や得意としていることを発揮しながら、生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は、会議の中で報告されており、朝礼や日常の業務内でも気が付いた時にその都度声掛けを行い改善に向け取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の作成は管理者でされている。評価の意義については、毎月の会議の際に職員へ説明し、理解してもらうよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度は1度開催され行事の報告やボランティアの紹介依頼をされている。今後は定期的に開催されるとともに、さまざまな分野からの参加を呼びかけ、その意見を反映し、さらにサービスの質の向上に繋がることを期待される。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口があることの説明はされている。家族の面会時に直接意見を聞き、運営の改善に反映されている。さらに、家族会を設けたり、行事などへの参加を呼びかけたり、自由に意見が言える機会を作るなどして、そこからの意見を運営に反映できるよう取り組まれていることが期待される。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>季節や月ごとの行事をされる際は、ボランティアの参加がある。周辺地域にはスーパーが多く入居者も同行されている。顔なじみの地域の方との交流も見られる。今後は、災害時の協力体制の確保についても地域と連携し取り組まれていることが期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の尊厳、安心、安らぎ、能力を尊重し、グループホームの名称の頭文字をとり、「ゆとり」「かいてき」「いやし」を独自の理念として掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をホーム内に掲示され、意識付けを行うため毎朝朝礼時に職員全員で読み上げられている。また、理念のあり方、意味の理解について月1回の全体会議で取り入れられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節や月ごとの行事をされる際は、ボランティアの参加がある。周辺地域にはスーパーが多く入居者も同行されている。顔なじみの地域の方との交流も見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価も職員がいつでも見られる場所に設置されている。評価の結果は全体会議で取り上げられ改善への取り組みについて話し合いが行われ、会議、朝礼時また、日常の業務の中でも気づいたときはその時々で声掛けをされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	今年度はまだ1回しか開催されていない。行事の開催予定や結果の報告、ボランティアの紹介等を依頼されている。	○	各家族との話し合いや行政との連絡などでの対応はされているが、より多くの意見を聴くことの出来る場として、定期的な開催と参加への声掛けを行い、サービスの質の向上に活かされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや杵藤地区以外からの入居についての問い合わせがある。また、現在入居されている方について行政との連携や、入居者の利用される制度以外でも日頃から行政と連絡を取られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会が、月1回あるため健康状態、金銭出納帳、ケアプランは家族に説明されている。行事の報告は口頭と玄関に張ってある写真で行われ、職員の異動も口頭で説明されている。	○	以前は「ゆかい便り」で行事の報告をされていたが、現在は口頭でのみの報告で便りの作成はなされていない。行事に参加できない家族への報告方法としても、再度発行されることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口があることを説明されている。家族と職員の話し合いはされているが、家族等が自由に意見を言える機会が少ない。	○	家族会を設けたり、行事などへの参加を呼びかけたり、自由に意見が言える機会を作るなどして、そこからの意見を運営に反映できるよう取り組まれることが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった時は、不安や人見知りのある入居者に対しては、馴染みのある職員が入居者と新しい職員の間に入り、時間をかけて対応されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議では、独自に季節ごとに発生する疾患などの勉強会を実施されている。外部の研修に参加した職員は、全体会議の際に報告されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に参加して他の施設の職員と顔見知りになり、お互いに施設の見学や交流をされている。見学に行かれるときは、管理者だけではなく希望している職員も同行されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が納得した上での入居となる。入居後まもない間は、スタッフが付き添い対応されている。落ち着きがない入居者に対しても同様に付き添われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な分野については、その都度職員が入居者に声掛けをし、学んだり支えあいながら生活されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間をかけて個々に応じた問いかけを行い、入居者の思いを引き出すよう対応されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向は生活の中で把握し、家族に対しては面会時に意向を確認し、それを踏まえ全体で話し合い、計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング、サービス提供状況の確認評価など定期的に行われている。変化が合った場合は、本人・家族の意向のもと介護計画の見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望により通院の付き添いや送迎は臨機応変に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、入居者のかかりつけ医への通院が可能であり、近医であれば通院介助は対応できる。また、急変時は協力医との連携体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方については、基本的にはかかりつけ医がグループホームでの生活が可能と判断された場合は受け入れは可能としている。	○	重度化・終末期の対応については家族の意向は確認されていないため、今後、意向を確認し、ホームの方針を検討されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にもあり、日頃から職員に意識付けをされている。個人情報保護についても留意され、事務所にて書類の管理をされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、散歩、買い物、趣味活動等すべてにおいて事前に入居者の意思確認をしている。不参加の場合は時間を置いて声掛けを行ったり、別の活動への声掛けを行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは1週間分決まっているが、買い物時に入居者が別のメニューを希望された場合や、近所の方が野菜を持ってこられた時は変更されている。職員も一緒に食事を摂り、入居者の生活リズムを尊重し食事時間も個々に対応されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助が必要な入居者がほとんどであり、個人対応をされている。皮膚疾患や浮腫が見られる入居者は、かかりつけ医の指示のもと入浴されない時は足浴で対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	計算、畑作業、食器拭き等、入居者の得意分野への参加の声掛けをしている。買い物や外出、外庭散歩等楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて、外食、買い物、外庭散歩などの対応をし、天気が良い日は外出支援をしている。年間計画があり、季節に応じた外出を計画されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。外に出たいと希望がある場合は、安全を考慮し職員が付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として、通報訓練・消火器の使用方法・避難訓練を実施している。避難訓練は、夜勤体制の設定で入居者の避難訓練を年2回実施しているが、地域住民への協力依頼はなされていない。	○	現在、訓練はホーム内で行われているため、今後は運営推進会議を利用して地域住民との避難訓練や協力体制の確保が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録し、把握している。定時に水分補給を促している。夜間の水分補給は、枕元に準備し、入居者が飲みたい時に水分を摂ってもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの貼り絵や飾りつけをされている。リビングにはソファが配置され、入居者はくつろいで過ごされている。空調管理も配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、ナースコール、エアコンが各部屋に設置されている。使い慣れた物や好みの物は、本人や家族と相談しながら持ち込まれ居心地のよさに配慮されている。		